第 1 回委員会後に頂いたご意見及び市の考え方・対応について

対象項目	ご意見	市の考えと対応について
委員会の進め方について	・委員会で全てを議論して決めるのではなく、大事なところを議論し、それをガイドラインに活かすよう事務局にお願いするところまでが委員会の役目である。委員会で何を議論すれば良いのかがわかりにくいため、議論のポイントをしっかりまとめて議論してもらうことが必要。 ・委員会で議論する内容としては、まちかど広場の方針、シンボル道路の方針、賑わいの方針、緑の方針等の切り口の方がわかりやすいのではないかと。またガイドラインの構成も、委員会での議論が必要。 ・計画する側の思い、何を目指しているのか（何を大切にしたいのか）が伝わらない。	(第 2 回資料：資料 2 - 5) ・限られた回数の委員会において、「大切にすべきもの」のあり方を明確にして議論を進めるため、委員のご意見を参考にしながら、今後の委員会で審議のポイントを絞り込みたいと考えています。 ・また、ガイドラインの構成についても、運用・活用しやすいものになるよう、委員会での審議を踏まえ、再検討していきたいと考えています。
ガイドラインの内容についてのご提案	・ガイドラインの内容に以下を考慮してほしい。 ①鎌倉の新しい拠点地区へ 観光都市「鎌倉」には、近年多くの観光客が押し寄せており、地元住民にとって住みよい環境ばかりではない状況。よって、深沢地区のまちづくりでは、都市機能の充実を図りつつ住民にとって住み良く健康で安心安全でやさしい新しい鎌倉のまちづくりを目指していくべき。 ②高齢者や子供たちに優しいまちづくり 健康と安全安心の地域づくり、医療機関・リハビリ施設・スポーツ施設の充実、老人福祉施設・保育施設の拡充 ③計画的な生活利便施設の配置 誘致する大型店の利点を最大限発揮してもらい、地元商業者との協調を目指し、また地産地消として近年話題となっている鎌倉野菜や腰越漁港、他の地元海産物産直としての売り場を確保して地場産業の活性と賑わいをもたせたい。 ④文化と教育 古都鎌倉にふさわしい歴史と文化に基づく地域として、教育環境に恵まれた地区として大学や専門教育施設の進出を計画に折り込みたい。 ⑤憩いの公園・緑地・空間 誰もがいつでもゆったりと散歩ができる遊歩道。小鳥のさえずりが聞こえるような緑の空間、木漏れ日の緑あふれる空間。幼児が安心して遊べる公園。お母さんが見守り楽しい場所。時には地域のお祭りやイベントも。	(第 2 回資料：P 6 まちの将来像、まちづくりの目標) ①まちの将来像『健康生活拠点・深沢』として、地域で暮らし、働き、学び、訪れる人、全ての人達が健康で快適な生活を送るための拠点を目指しており、住みよい環境の形成を図りたいと考えています。 ②まちづくりの目標「目標 2. 安全・安心なまちを実現します」を実現するため、高齢者や子供たちに優しいまちづくりを誘導するとともに、医療施設やスポーツ施設等、多様な機能の導入を図りたいと考えています。 (第 2 回資料：P 8 土地利用の基本方針、参考資料) ③商業施設を中心とした賑わいエリアでは、地元の深沢中央商店会や市場との連携のもと、商業と農業の交流、地場産業・商業の活性化を図ることを目指します。 ④医療福祉系大学など、文化・教育機能の導入を図ることを視野に入れて検討を進めています。 (第 2 回資料：P 13 都市空間形成の方針) ⑤近隣公園は緑と水により人々が安らぎ、憩うことができる空間の形成を目指します。また、日常的な利用だけでなく、お祭りなどの季節のイベント等を開催するなど、地域住民・来街者が快適に過ごせる場所を目指します。

	・ガイドラインで全てを決めきってしまうのではなく、事業者（地域の人）の創意工夫に任せておく考え方もある。自発的な人の活動を生み出すものは何か等、そのような議論も必要なのではないか。	・民間事業者ヒアリング等を参考としながら、本ガイドラインで定めるべき事項と、事業者や地域の活動に任せるべき事項を整理し、ガイドラインの取りまとめ方を検討したいと考えます。
地区周辺の状況の整理について	(第1回資料：P4 適用範囲、参考資料) ・土地利用計画時に整理している道路の性格や道路ネットワーク等を再度確認する必要がある。また、自転車・歩行者ネットワークの整理も必要。 ・深沢地区だけでなく、周辺のエリア、藤沢市側の計画等についても示した上で議論する必要がある。 ・眺望も大事なので、どこから斜面緑地を見ることができるか、整理が必要だと思う。	(第2回資料：参考資料) ・道路ネットワーク、地区周辺の状況、藤沢市側の計画等について、参考資料2に別途整理しました。 ・眺望については、第3回委員会においてご審議頂く予定です。また、参考資料4、5のように、地区周辺の高さや建物の状況等、ご議論して頂く上で必要な情報については、整理を行っています。
ガイドラインの運用・活用方針について	(第1回資料：P5 ガイドラインの運用・活用方針) ・住民や事業者の関わり方等については大切なことなので、早い段階で議論しておくことが必要だと思う。	・ガイドラインの運用・活用方針を念頭に置きながら、整備イメージ等を形成していく必要があると考えられますので、これらについて早期の議論の必要性は認識しています。 ・委員会での議論や、民間事業者へのヒアリング等を踏まえて、早めに議論できる土台を整えて行きたいと考えています。
※以上(1)(2)の意見		
過去の経緯とガイドラインへの反映について	(第1回資料：P10以降 まちづくりの基本方針) ・今まで何が強く言われてきたのか等、再度過去の資料等を整理する必要がある、委員会においては、重要なことをしっかり議論してもらうことが大事。 ・今まで時間をかけて委員会等を行ってきた中で住民の方々の役割、係り方等、このような構成に至った背景について整理する必要がある。	(第2回資料：P11 協議会での主な意見と基本方針への反映) ・深沢地区事業推進協議会等の意見を再度整理し、地区における大切にしたいもの、重要なものをガイドラインに反映すべき要素（ポイント）として抽出しました。 ・また、これらの要素を基本方針や計画指針にどのように反映していくか事務局からの提案として整理を行いましたので、委員会でご議論頂き、頂いた意見をもとにガイドラインの基本方針及び計画指針に反映したいと考えています。
都市空間形成の方針について	(第1回資料：P10 都市空間形成の方針) ・都市空間の骨格イメージについて、同じ商業エリアであっても、空間の使い方によって性格は異なり、賑わいエリア1と賑わいエリア2でも、同じ賑わいではないと考える。 ・人がどういう活動をするのか、賑わいといってもどのような使われ方をするのかがイメージできない。(事例写真があっても、何に注目しているのかわかりにくい)。	(第2回資料：P18～P21 都市基盤施設の計画指針) ・賑わいエリアやシンボル道路等の空間イメージについては、委員会での議論を通して、具体的な活動イメージや空間の利用イメージについて固めていく中で、性格の違い、使われ方の違い等、整理していきたいと考えています。 ・重要な区間イメージについては、類似事例の写真や断面図、平面図等をたたき台として議論をお願いしたいと考えています。

	・地域に愛着を持たせることが大切。よって、地域が大事にしてきたもの、それに係ってきた人がいるということを計画に活かしていく必要があると思う。 ・子育ての視点も必要。(芝生をひいて子供が裸足で過ごせる等)	・「子育ての視点による空間づくり」や「地域に愛着を持てるような仕組みづくり」も重要なテーマであり、空間の使われ方等に係る委員会での審議を踏まえ、ガイドラインの内容へ反映していきたいと考えています。
都市空間形成の方針について 4) シンボル道路	○シンボル道路について ・何をシンボルとしたいのか、強調したいことは何かがわかりにくい。 ・建物と道路の際の空間の使われ方が大事であり、歩道と建物のセットバックでどのような使われ方ができるのか等、わかるように整理したほうがよい。 ・シンボル道路沿いの賑わいについても、街区沿いに創出するのか、街区内にひきこむのかで異なると思う。	(第2回資料：P18 シンボル道路沿いの整備イメージ) ・過去の協議会等の議論を整理する中で、シンボル道路における重要な要素として「緑量の確保」、「賑わいの創出」、「快適な歩行空間の創出」が挙げられていることから、計画指針(事務局案)ではこれらに着目した空間イメージを提案しています。 ・今回の委員会においてご議論を頂く中で、何をシンボルとするのか、賑わいの創出の方法、緑量の確保の考え方等について、整理していきたいと考えています。
3) まちかど広場	○まちかど広場について ・まちかど広場については、歩行者動線のネットワークも重要であり、動線として機能しないまちかど広場については、本当に必要なかという議論もある。 ・それぞれのまちかど広場における空間の使われ方の整理が必要である。また、建物のアクティビティを外に発信できるよう、ガラス張りとする等の誘導も必要なのではないかな。	(第2回資料：P20 まちかど広場の整備イメージ) ・まちかど広場の配置については、周辺地域との繋がりや歩行者動線を考慮した上で設定いたしました。また、配置された場所に応じて、まちかど広場の方針の事務局案を提案していますので、ご意見頂きたいと考えています。 ・シンボル道路沿道の建築物等のあり方についてご意見をいただければと考えています。ただし、建物の形態・意匠等の誘導方策は、第3回委員会で主にご審議頂きたいと考えています。
都市環境の整備方針について ※以上(3)(4)の意見	(第1回資料：P12 都市環境の整備方針) ・風の道等、考え方は良いと思うし、環境については精神論を書くのは良いと思うが、本地区に取り込めるか、難しいのではないかなと思う。 ・環境インフラについては、地区も小さいため、技術が発展した時に足かせとなることも考えられる。よって、環境系の取り組みについては、施設対応でよいと考える。	(第2回資料：P15 都市環境の整備方針) ・「目標4. 環境と共生するまちを実現します」に掲げる通り、まちづくりにおいては、環境共生の視点は重要なものであると考えています。地区の特性を勘案し、ガイドラインを通じて実現できそうなものについては積極的に取り組み、さらなる取り組みは、実現を目指す方針として掲げたいと考えています。